
第2回 東京湾流域別下水道整備総合計画策定懇談会 議事録

日時：令和3年3月24日(水) 10:00～12:00

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館5階 501会議室（WEB開催）

出席者：別紙参照

議事：

1. 現況負荷量の定量化結果について 東京湾汚濁解析モデルの現況再現結果について
2. 第1回懇談会等の指摘事項の対応について
3. 今後の検討スケジュールについて

I 議事要旨

- ・ 第1回懇談会のモデル構築方針に基づきシミュレーションモデルが構築されており、現況再現結果については全体として観測値と整合し、東京湾の傾向が概ね良好に再現されていると判断される。

II 議事録（概要）

(1) 汚濁解析モデルの構築について（資料-1）

- ・ 難分解性比率の採用値は、複数の異なる水域の調査事例であるが、東京湾の解析に採用しても妥当性に問題がないか。（花木座長）
⇒ 難分解性比率の調査事例が少ないため、現在はこの値を採用している状況である。今後も、他の調査事例を調査する予定である。（事務局）
⇒ 難分解性比率、無機態比率等のパラメーターは、計算結果にどの程度影響を及ぼすのか感度分析を実施し、各パラメーターの重要度を把握しておくが良い。（浅枝委員）
- ・ 主要河川の流入水質が東京湾の水質に及ぼす影響の傾向を把握しておくが良い。これは、各自自治体が河川の水質改善対策を実施する際に、住民への説明材料として有効であると考えられるため。（浅枝委員）
- ・ 気候変動などが東京湾へ及ぼす影響として、漁獲量や魚種の変化を把握しておくが良い。至近10ヶ年程度の漁獲量や魚種の変化のデータは、水産試験場の調査等から得られるはずなので、分かる範囲で東京湾の水質変化との関係の有無を確認してみると良い。（近藤委員）

(2) 現況再現計算結果について（資料-1）

- ・ 湾奥の残差流の流向に影響する要因を把握しておくが良い。（浅枝委員）
 - ・ クロロフィルaの観測値の変動幅が大きいが、観測方法に問題があるため変動が大きいのか。（花木座長）
⇒ 植物プランクトンに含有しているクロロフィルaの量は、バイオマス量の数%程度であり、観測時間等の違いで観測される物質の変動が大きく、正確に測定することが難しい。クロロフィルaの観測結果は、自然現象による変動が大きく、計算値と観測値に乖離が生じることも許容すべきである。（浅枝委員）
 - ・ 前回の流総計画で指摘されていた、東扇島沖環境基準点の計算値と観測値の乖離について、今回の計算結果についての見解はいかがか。（花木座長）
⇒ 環境基準点近傍では鶴見川からの淡水流入、湾岸では底泥汚濁が進行し、計算値と観測値が乖離していたと考えられるが、東京湾全体の水質に与える影響は小さいと考えられる。この
-

ため、この地点の再現性を改善することで、他地点の計算結果に悪影響を及ぼす懸念があることから、再現性向上を無理に行う必要はないと考えられる。(浅枝委員)

⇒ 乖離が大きい地点における要因は引き続き検討する。(事務局)

- ・ 浚渫や水路維持の事業による掘削が湾岸部の水理・水質に影響を与えている可能性が考えられる。これらの事業は、港湾部によってデータが収集されていると思われる。それらのデータを確認することで現在計算結果が乖離している地点についても改善する可能性がある。(近藤委員)

⇒ そういったデータを収集し確認する。(事務局)

(3) 第1回懇談会等の指摘事項の対応について (資料-2)

- ・ 予測される水温の上昇幅は 1℃程度であるものの、気候変動の影響を将来予測に含めて計算することは重要である。(花木座長)
- ・ 近年では夏季から秋季にかけて海水温がなかなか低下しないことから、季節的な水温上昇の影響を評価することが重要と考えられる。(浅枝委員)
- ・ 出水時の人工衛星画像の SS 濃度と現況再現の懸濁態有機物(POM)の平面分布の比較は興味深い。比重の大きい SS は沈降、比重の小さい POM は表層を移動していると考えられる。表層と少し下の層で流れの違いがあることを示していると思われる。(浅枝委員)

(4) 今後のスケジュールについて (資料-3)

- ・ 令和4年2月に第3回懇談会を予定している。(事務局)

以 上